

令和5年度 英語学習実施状況について

金沢市立泉野小学校

①小学6年生 英語学習についてのアンケート(令和6年1月実施)

(%)

		そう思う	どちらかと言えば そう思う	どちらかと言えば そう思わない	そう思わない	無回答
問1	英語の勉強が好きだ。	42.0	39.0	18.0	1.0	0.0
問2	英語の勉強は大切だ。	81.0	18.0	0.0	1.0	0.0
問3	ショートタイムの時間は英語の勉強に役立っている。	48.0	41.0	7.0	4.0	0.0
問4	英語の授業の内容が分かる。	69.0	41.0	7.0	4.0	0.0
問5	先生や友達に英語で質問することができる。	40.0	42.0	17.0	1.0	0.0
問6	先生や友達の英語の質問に英語で答えることができる。	26.0	50.0	24.0	0.0	0.0
問7	アルファベットの大文字が書ける。	92.0	8.0	0.0	0.0	0.0
問8	アルファベットの小文字が書ける。	94.0	6.0	0.0	0.0	0.0
問9	教科書やピクチャーディクショナリーの単語や英文を書き写すことができる。	87.0	12.0	1.0	0.0	0.0
問10	教科書の単語や英文を読むことができる。	52.0	33.0	15.0	0.0	0.0

②指導改善の具体策

- ・児童が意欲を持って学習に取り組むことができるような単元ゴールの設定、単元構成の工夫をする。
- ・色々な学年の児童が、ALTや地域の方などの外国の人と実際に英語で話す機会を設定することで、英語でやり取りをすることの喜びを感じることができるようにする。
- ・ペアやグループでのやり取りの時間を毎時間設定することで、英語で質問したり答えたりすることに慣れ親しませる。また、やり取りの際には児童にとって身近なことを話題とするなど工夫をする。
- ・高学年は、慣れ親しんだ表現について単語や英文を読む活動を少しずつ取り入れる。

③学校関係者評価

- ・授業で学習したことをいかして、外国の人と実際に英語を使ってのコミュニケーションをとる場面が増えることはとても良い。英語が使えた、通じたという喜びが児童に自信や達成感を味わわせることにつながる。どの学年でも積極的に関わる場面を設定することを継続してほしい。
- ・小学校では英語が好き、楽しいと感じている児童でも、中学の授業とのギャップで英語に苦手意識を持つことが多いと聞く。中学との情報交換などにより小中の連携を大切にし、子どものギャップをうめてほしい。
- ・アルファベットの大文字、小文字を書くことに対して自信を持っている子が多いのは良い。教科書の単語や英文を読むことができると感じているがやや少ないように感じるので、読むことにも自信をつけることで、中学でのギャップを埋めることにつながるのではないかと。